

憂

田中康夫

今月の憂いゴト

デイスカバー・ジャパンから、
勢いを増すイスラム国、
スコットランドの独立騒動、
香港の学生デモまで！

「東京ステーションギャラリー」で開かれている、
「デイスカバー・デイスカバー・ジャパン『遠く』へ行きたい」展を
興味深く鑑賞した田中・浅田両氏。
開業100年を迎えたレンガ造りの東京駅を眺めながら、
振り返るべき時代の精神を示唆した。

photographs by Yusuke Abe text by Kentaro Matsui

浅田彰

憂国呆談

season 2 VOLUME 53

**今、振り返るべき、
モーレッツからビューティフルへ。**

浅田 東京駅が開業100年、東海道新幹線が開業50年を迎えたことで、江戸東京博物館で『東京オリンピックと新幹線』展が開かれてるけど、東京ステーションギャラリーの「ディスカバー、ディスカバー・ジャパン『遠く』へ行きたい」展が意外に面白い。戦後の復興と成長の過程で1964年に東京オリンピック、70年に大阪万博が開催されたあと、そういう大量生産・大量消費・大量廃棄による高度成長はもう卒業しようってんで、電通の藤岡和賀夫がゼロックスと「モーレッツからビューティフルへ」ってキャンペーンを張った。前半は69年の丸善石油の「オー、モーレッツ！」ってTVCM（小川ローザがミニスカートを翻すやつ）の引用だけだね。最初のほうで「いま、100億円かけて壊しています」って言って万博会場解体工事の写真を大きくフィーチャーするんだから、けっこうラディカル。その流れのうえで旧・国鉄と「ディスカバー・ジャパン」キャンペーンを展開、大都市集中に対し、忘れかけていた地方の自然と伝統の（再）発見を訴えた。絵葉書風の写真はやめ、あえてブレた主観的なショットを多用するとか、手法的にも新しい。さらにそれを批判する中平卓馬の写真なんかも、この展覧会で大きくフィーチャーされてる。それどころかシンポジウムでは連合赤軍とパレスチナに行った映画作家の足立正生までゲストに呼ぶんだからね。安倍晋三右翼政権の応援団みたいなJRの美術館でこれだけラディカルな展覧会をやるってのは大したものだよ。企画した学芸員の成相肇は79年生まれだけど、昔の

資料を発掘して斬新な角度から切って見せる手並みは鮮やか。この時代を知るわれわれをも驚かせてくれる。「ディスカバー・ジャパン」自体はポストモダンな広告キャンペーンの先駆けって言ってしまえばそれまでだけど、「東京オリンピックの熱気ももういちど」なんて騒いでる現状では、振り返ってみる価値は十分にある。

田中 後に富士ゼロックス社長となる小林陽太郎が役員として「モーレッツからビューティフル」というキャッチコピーでテレビコマーションや新聞広告を打った。当時の経営者にはそうした時代の方向性を打ち出せる人間がいたけど、今は絶滅品種だ。「ディスカバー・ジャパン」と運動して始まった旧・国鉄提供のテレビ番組「遠くへ行きたい」の中から、伊那谷の下栗の里が紹介されていたね。旧・上村、現・飯田市の下栗は日本のチロルと呼ばれて、ハイジが住んでいるような集落。今も当時の風景のままで僕も大好きな場所。そこで村人が総出で結婚式を祝っている場面が映し出されるんだけど、村人が「最初に仲人の口上ですが今日は省略して」なんて言ってる、映像がやらせであることをあえて暴露している（笑）。テレビマンユニオンの今野勉がディレクターだけ、面白いよね。

浅田 レポーターの伊丹十三がはつきり言っちゃうんだよ、「こういうのはウソだから放送しないほうがいいとあなたは思われませんか。でもウソを承知でも、下栗の人々が村中総出で誠意をこめて一芝居打ってくださったという事は、あくまでも現実でしょう。……ともあれ事の賛否はテレビを



「ご覧のみなさんにお任せしたいと思う」と（笑）。カメラが入ることで現実が変わっちゃう以上、純粋なドキュメンタリーなんてありえないってことを、TVの視聴者に突きつけちゃうわけだから、同時代のゴダールなんかにも通ずるセンスを感じるね。広告にせよTV番組にせよ、保守化したいまの時代ではとてもこんなラディカルなことはできない。

田中 「テレビは、その特性によって、虚構が今まさに作られているという現実を伝えることもできる、とする点です」との今野の発言も揭示されていたね。万博が開催された70年は、65歳以上が7・1パーセントとまさに日本が高齢社会に入った象徴的な年だった。里山資本主義を唱える藻谷浩介が、問題山積な品川・新大阪のリニア中央新幹線に計9兆円余りも投じるより、金沢止まりの北陸新幹線を滋賀県の米原まで一気に通すほうが、今の日本に相応しい賢いバイパス効果だと言っている。で、東京発のひかりを1時間に1本、米原から金沢、富山へ通す。米原から新大阪へ向かうひかりが1本減る分は、富山発で新大阪まで走らせる。で、京都や新大阪まで新幹線を引くよりは、むしろ琵琶湖西側の湖西線を整備したほうが通勤電車として機能すると。

浅田 正しいね。東海道新幹線の突貫工事ですら210人の犠牲者が出たことは忘れるべきじゃないけれど、開業以来50年間で56億人を運び死傷者がゼロってのは確かにすごい。近年では遅延の平均がほぼ1分以下ってんだから驚くよ。技術的に完成の域に達して、なお高速化が見込める、と。

休することがあったけど、その連休時間に傷んだバラスや線路をメンテナンスしていた。「なんで走らないんだよ」とイライラもしたけど、当時の社会はそれを許容していたよね。

浅田 在来線の特急ごだまは東京・新大阪間を6時間50分で走ってた、それを64年にひかりが3時間に縮めたのは革命的な変化と言っている。他方、JR東海がつくろうとしてるリニア新幹線は、のぞみなら90分ほどの品川〜名古屋間を40分に縮める、と。ただし、品川の乗り場が地下400メートル、名古屋は地下300メートルだから、乗り換えに時間がかかって、実質は新幹線より10分ほどしか縮まらないって話も。9割近くがトンネルで建設費も巨額だし、膨大な電力を食う。札幌〜鹿児島、あるいはニューヨーク〜シカゴとか、北京〜上海とか、それを短時間で結ぶなら意味があるかもしれないけど、すでにのぞみが短時間で結んでる品川と名古屋や大阪の間にそこまですてりニア新幹線をつくる必要があるとは思えないな。

田中 全部で東京ドーム46個分のトンネル残土の多くが運び出される、下栗の里から谷を一つ越えた大鹿歌舞伎で知られる長野県・大鹿村は大変なトラックの交通量になる。御嶽山が噴火して多くの死者を出したけど、赤石山脈の下で地震が起こってフォッサマグナが破裂したら、山頂から1600メートルも下を無人運転で通過するリニアの乗客をどうやって救助するつもりなんだろうね。

**イスラム国の背景と、
スコットランド独立失敗。**

田中 日本人大学生が「イスラム国」に参

加するためにシリアに渡航しようとしてたけど、イスラム国というのはビン・ラディンの時代のテロ集団とは性質が違ってネット族なんだな。貧困がなくなればテロはなくなるって考えられていたけどそうならず、

例えば、イギリスで父親がそれなりの収入を得ているような家に育ったけれども、居場所がないという青少年に対してYouTubeを通じて、「君たちの居場所はここにある」、「アッラーの下で天使になれる」って映像を発信。鵜呑みにしてイスラム国

へ向かう。それに対して国家というネーションステイト側はまったく古いOSで対抗しようとしているから、殲滅なんてできっこない。たとえ彼らが殺戮されてもウィルスのように、他から生まれてくる。

浅田 給料が高いこともイスラム国に志願兵が集まる一因ではあるんだけどね。ただ、再分配と承認することがあってさ。貧しい人に所得を再分配すればすべて片づくわけじゃない。個人を社会の中で役立つ存在

として承認するってことがなきゃいけない。欧米社会でそういう承認を得られないでいる連中が、イスラム国から承認されて生き甲斐を見つけてやうんだらうな。

田中 トルコやシリアもイスラム国を攻撃しているけど、それは同床異夢だし、以前に述べたように欧米ビジネス界の最大関心事は、イスラム国と付かず離れずなイランの人口6000万人市場だ。そのイランの台頭を警戒するサウジアラビアは、外交

のないイスラエル空軍機がイラン攻撃時にサウジ上空の通過を許す密約があるともいわれる。いわばイスラエルと同盟を組んでいるようなもの。

浅田 最大の問題は、アメリカがサウジアラビアのような非民主国家を甘やかしてきたこと。その結果、アル・カイダからイスラム国にいたる過激派が出てくる。サウジはそれを批判するけれど、裏ではサウジなんかの金持ちからの多額の寄付が彼らを支えているわけだ。

ともあれ、アメリカもとうとうイスラム国への空爆に踏み切った。とはいえ、空爆だけでどうなるものでもない。バラク・オバマ大統領は攻撃したくなかったに決まっているけど、アメリカ人が首をはねられる映像がネットで流れちゃった以上、手をこまねいてるわけにはいかなかったらうな。

そういえば、トム・克蘭シーの『合衆国崩壊（新潮文庫）』では、イスラム勢力がエボラ出血熱ウイルスの変異体を生物兵器としてアメリカに送り込んでくる。今のエボラ騒動でも、アメリカで感染者が

香港の学生たちも台湾から学んでいるわけだけど、台湾同様に首尾良く展開するかは微妙な感じではある。(田中)



田中康夫

たなか・やすお●1956年東京都生まれ。一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。11月に『33年後のなんとなく、クリスタル』を出版予定。

確認されて株価が急落したけど、そこにはバイオテロに対する恐怖もあるんじゃないかな。

田中 イスラム勢力は登場しないけどリチャード・プレストンが1995年に書いたノンフィクションの『ホット・ゾーン』（飛鳥新社）も再販されたね。とまれ、イスラエルと同じような「鬼っ子」的存在がイスラム国として創設されつつあるとも言える。

そして今や日本は、そのイスラエルと同じような煙たい存在としてワシントンでは見られている。よかれと思って両国がやっているベクトルは当のアメリカや欧州各国にとっては「鼠兎の引き倒し」ということだ。かなり深刻で悩ましいよ。

浅田 別の角度では、日本がアジアから浮いてるようにイギリスもヨーロッパから浮いて、そこが似てるとも言える。むしろ、ヨーロッパにはアジアにないEUがあるんだ。イギリスはその枠内にとどまるべきなんだけど、デイヴィッド・キャメロン首相はEU離脱を国民投票にかけると言っているからね。その一方でスコットランド独立は認めないってんだから、イギリス（連合王国）の国家主権を重視する点では一貫しているものの、どうしても矛盾して見える。

田中 11月下旬に上梓する『33年後のなんとなく、クリスタル』の推薦文を、なかにし礼さんや福岡伸一さん、浅田さんらと共にお願いした浜矩子さんが毎日新聞に寄稿していたけど、スコットランドには、ナチス・ドイツや旧・ソ連邦に占領されて辛酸をなめたポーランドからの移民も多い。そのスコットランドも原発をはじめとした「迷惑施設」を押し付けられてきた。そうした複雑な思いが今回の根底にあると。

日本では、政党名に象徴されるように、自由と民主が同義語だと思われているけど、

しかも、簡単に勝てると思って、スコットランド独立をめぐる住民投票の実施に同意したところが、予想以上の接戦のあげく独立賛成派に辛うじて勝利するっていうドラマタタタ。他方、独立派のほうも、独立スコットランドがいかなる国になるのか、その構想を示さず、ともかく独立だけを訴えた、でも有権者から見れば独立だけを訴えがんだだけじゃ具体的な選択肢とは言えないからね。北海道田をスコットランドのものにすれば経済・財政はうまくいくって言うだけ。独立しても通貨としてポンドを使いづづけるって言いながら、イングランド側がそれを否定しても、じゃあどうするかって議論すらしない。また、もしイングランドが同意したとしても、共通の財政政策なしの通貨同盟が自由度の欠如から悲惨な結果を生みかねないことは、ユーロ危機以後ヨーロッパ各国が実際に経験してきたこと。そもそも、スコットランドが統合に賛成せざるを得なかった背景に、17世紀末のウィリアム・パターソンズのダリエン計画の失敗による経済危機があったことを思い出せば、そうした議論抜きの独立論争はあまりに感情的なものに見える。

田中 11月下旬に上梓する『33年後のなんとなく、クリスタル』の推薦文を、なかにし礼さんや福岡伸一さん、浅田さんらと共にお願いした浜矩子さんが毎日新聞に寄稿していたけど、スコットランドには、ナチス・ドイツや旧・ソ連邦に占領されて辛酸をなめたポーランドからの移民も多い。そのスコットランドも原発をはじめとした「迷惑施設」を押し付けられてきた。そうした複雑な思いが今回の根底にあると。

日本では、政党名に象徴されるように、自由と民主が同義語だと思われているけど、

しかも、簡単に勝てると思って、スコットランド独立をめぐる住民投票の実施に同意したところが、予想以上の接戦のあげく独立賛成派に辛うじて勝利するっていうドラマタタタ。他方、独立派のほうも、独立スコットランドがいかなる国になるのか、その構想を示さず、ともかく独立だけを訴えた、でも有権者から見れば独立だけを訴えがんだだけじゃ具体的な選択肢とは言えないからね。北海道田をスコットランドのものにすれば経済・財政はうまくいくって言うだけ。独立しても通貨としてポンドを使いづづけるって言いながら、イングランド側がそれを否定しても、じゃあどうするかって議論すらしない。また、もしイングランドが同意したとしても、共通の財政政策なしの通貨同盟が自由度の欠如から悲惨な結果を生みかねないことは、ユーロ危機以後ヨーロッパ各国が実際に経験してきたこと。そもそも、スコットランドが統合に賛成せざるを得なかった背景に、17世紀末のウィリアム・パターソンズのダリエン計画の失敗による経済危機があったことを思い出せば、そうした議論抜きの独立論争はあまりに感情的なものに見える。

田中 11月下旬に上梓する『33年後のなんとなく、クリスタル』の推薦文を、なかにし礼さんや福岡伸一さん、浅田さんらと共にお願いした浜矩子さんが毎日新聞に寄稿していたけど、スコットランドには、ナチス・ドイツや旧・ソ連邦に占領されて辛酸をなめたポーランドからの移民も多い。そのスコットランドも原発をはじめとした「迷惑施設」を押し付けられてきた。そうした複雑な思いが今回の根底にあると。

日本では、政党名に象徴されるように、自由と民主が同義語だと思われているけど、

しかも、簡単に勝てると思って、スコットランド独立をめぐる住民投票の実施に同意したところが、予想以上の接戦のあげく独立賛成派に辛うじて勝利するっていうドラマタタタ。他方、独立派のほうも、独立スコットランドがいかなる国になるのか、その構想を示さず、ともかく独立だけを訴えた、でも有権者から見れば独立だけを訴えがんだだけじゃ具体的な選択肢とは言えないからね。北海道田をスコットランドのものにすれば経済・財政はうまくいくって言うだけ。独立しても通貨としてポンドを使いづづけるって言いながら、イングランド側がそれを否定しても、じゃあどうするかって議論すらしない。また、もしイングランドが同意したとしても、共通の財政政策なしの通貨同盟が自由度の欠如から悲惨な結果を生みかねないことは、ユーロ危機以後ヨーロッパ各国が実際に経験してきたこと。そもそも、スコットランドが統合に賛成せざるを得なかった背景に、17世紀末のウィリアム・パターソンズのダリエン計画の失敗による経済危機があったことを思い出せば、そうした議論抜きの独立論争はあまりに感情的なものに見える。

田中 11月下旬に上梓する『33年後のなんとなく、クリスタル』の推薦文を、なかにし礼さんや福岡伸一さん、浅田さんらと共にお願いした浜矩子さんが毎日新聞に寄稿していたけど、スコットランドには、ナチス・ドイツや旧・ソ連邦に占領されて辛酸をなめたポーランドからの移民も多い。そのスコットランドも原発をはじめとした「迷惑施設」を押し付けられてきた。そうした複雑な思いが今回の根底にあると。



実は自由はボーダーレス。民主はボーダーフルというかボーダーコンシャス。EUとは、その対立する概念の両者をアウフヘーベンさせようという壮大な取り組みだ。

金持ちだけが馬車に乗って北イタリアへと旅して、コモ湖の畔で恋に陥ったゲーテの時代と違って、今やライアンエアやイージージェットで誰もが安価で自由にパスポートの提示なしで移動できるボーダーレスでも、その一方で、それぞれの地域の土の香りが味わえるテロワールの料理、さらには言語や文化という金銭に換算できないものはボーダーコンシャスだ。

その意味でもスコットランドが自治州になるのはアリ。ただし、EUから出て行く必要はない。逆に、EUから出ようと言っているイングランドが、独立は許さないぞとスコティッシュに対して上から目線で言うのは醜悪でしかない。

浅田 EUは、国家主権を制限し、EUから地方自治体までが課題に応じて補完的に働けばいいって原理なんで、地域が国家から独立していくのは当然の流れなんだよね。実際、追い詰められたキヤメロンが、スコットランド独立を阻むため、自治権の拡大を約束した、となると他の地方も同じ自治権を要求するだろうし、住民投票で独立が否定されて終わってわけにはいかないね。

香港の学生デモは、 どんなかたちで収束する？

田中 香港の学生デモは一般市民も賛同して長期化しているけど、結果的には梁振英行政長官が辞める形で習近平体制は収束を図るだろう。梁長官がつくった選挙制度をリセットする形で中国は面子を保ちつつ時間稼ぎもできる。ただし、中国の国内に影

響がどう及ぶかという問題があるから、非常に現段階では難しいよね。

浅田 習近平国家主席が賢かったらそうするだろうけど、民主化運動の国内への波及を恐れるあまり、柔軟な対応がとれなくなる危険もある。台湾で、投資協定によって中国に呑みこまれることを恐れる学生たちが立法院を占拠したとき、馬英九總統とは別に、立法院院長が学生たちと面会して、中国との交渉をモニターする機関をつくることを約束した、ああいう収め方ができるかどうか。

田中 香港の学生たちも台湾から学んでいるわけだけど、台湾同様に首尾良く展開するかは微妙な感じではある。いささか血気盛んすぎて。

浅田 ただ、香港はプラグマティストが多いし、天安門事件の記憶もあるから、暴走することはないとと思うけど。問題は、むしろ、中国が暴走する可能性でしょう。

15歳で愛国教育反対のデモを組織し、17歳になって今回のデモを組織した黄之鋒に注目が集まっているけど、今回のデモの背景にあるのは行政長官選挙制度の問題だけじゃない、愛国教育による洗脳への反発といった広く共有された危機感があるってこと



は、中国もちゃんと認識しないと。

田中 それは日本にとっても「ロールシヤッハ」な問題でね。「愛国教育」を拒否

した香港の彼らを、産経新聞に代表される「嫌中・嫌韓派」は礼賛しているけど、一連の歴史修正主義に疑問を抱く日本国内の人間に対しては、愛国心の欠片もない売国奴で国賊だから「愛国教育」が必要だ、と自己撞的な発言を繰り返しているのだから。民主党ともまた違う「ブーメラン」が生まれつつある（苦笑）。

浅田 ところで、ノーベル物理学賞が発表され、赤崎勇、天野浩、中村修二の3人が青色LED（発光ダイオード）の発明で受賞したけど、先日亡くなった宇沢弘文もノーベル経済学賞を受賞しておかしくない学者だった（経済学賞つてのが相当いかがわしいことは措くとして）。エコロジーを重視する方向に進んだから候補から外されたけど、もともとポール・サミュエルソン流の新古典派とケインズ派を総合する理論から出発した人で、そんなバリバリの経済学者が「社会的共通資本」の重要性を説くま

欧米社会で
そういう承認を
得られないでいる
連中が、イスラム国から
承認されて
生き甲斐を
見つけちゃうん
だろうな。（浅田）

でなくなったところが、学者としての器量の大きさを示しているとも言える。

田中 県知事時代に「未来への提言」を「信州ルネッサンス革命」という長尺の答申を宇沢さんに書いていただいたのを思い出すよ。水俣病や成田空港の問題にも取り組む社会派だった彼の言葉で印象深いのは、1983年に文化功労者に選ばれた際、昭和天皇を囲んだ席で「ケインズが社会的共通資本が」と熱く説明している途中で、

昭和天皇が「君！君は経済、経済と言っけど、人間の心が大事だと言いたいんだね」と言ったというエピソード。天皇制には懐疑的だった宇沢さんがその後の宴席で入江相政侍従長に「なかなか魅力的な方ですね」と声をかけたなら、「君、あれを育てるのに1000年かかったよ！」と答えたこと（笑）。外務省や警察庁から来ている最近の長官や侍従長ではないからそんなセリフが言えるんだね。昔は宮内庁にもそういうエスプリがあったという逸話。

宇沢さんは日本政策投資銀行の設備投資研究所の顧問だった。そこに在籍中の竹中平蔵が、同僚の行った実証分析の結果を無断使用して『研究開発と設備投資の経済学』という著書を出し、あろうことかサントリ1学芸賞も受賞する。「あの時、竹中君を厳罰に処しておけば、新自由主義経済の妖怪が日本を徘徊することもなかった。一生の不覚だ」とも言っていたよ（苦笑）。



浅田 彰

あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。
京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。
83年に出版されたデビュー作『構造と力ー記号論を超えて』はベストセラーに。